

第五十六回

岡山後楽能

2026年

11月3日(火・祝)

岡山
後樂園
能舞台



第一部 十時三十分開演

喜多流大島会社中発表会

第二部 十三時十五分開演

解説(本日の演目について) 大島輝久

狂言 腰祈

山伏 島田洋海
祖父 田賀屋夙生
太郎冠者 増田浩紀
後見 坂本良太

十四時過頃

休憩 十五分

能 葵上

ツレ(照日巫女) 荒木七海
シテ(六条御息所怨霊) 大島衣恵

ワキ(横川小聖) 江崎欽次朗
ワキツレ(臣下) 松本義昭
アイ(従者) 島田洋海

後見 高林呻二
高林昌司

大鼓 守家由訓
小鼓 横山幸彦
太鼓 梶谷英樹
笛 八木原周平
塩津圭介
出雲康雅
大島政允
大島輝久

■曲目解説

□狂言「腰祈(こしいのり)」

山伏が修行を終え本国へ帰る途中、久しぶりに都の祖父の方へお見舞いに参ります。百歳に及ぶ殊の外腰の曲がった祖父と対面した山伏は、窮屈そうな腰を祈り伸ばそうかと申し出ます。祖父は孫の申し出を受け入れ、山伏は早速祈り伸ばそうと行力法力を使い祈り出します。さて祈禱治療は当たりと出るか、外れと出るか、いかがなものでしょうか。

山伏狂言に分類されるため、シテは山伏ですが、祖父をシテとする場合もあるようです。狂言中では祖父を「おおじ」と呼び、「おおじ」専用面を着け、歳のとった老人を現します。

□能「葵上(あおいのうえ)」

光源氏の正妻、葵上は物の怪に取りつかれ病の床に伏していました。病平癒の方法を様々に試みた末、照日巫女に命じ梓弓で霊を呼びよせると、六条御息所の怨霊が姿を現します。御息所は元皇太子妃という高貴な女性でありながら源氏との男女関係に苦しみ、更に賀茂祭での車争いで葵上から受けた屈辱的な仕打ちに苦しんでいると訴えます。そして、嫉妬と恨みに駆られ葵上を打ち据えるのでした。

家臣たちは御息所の激しさにおののき、急ぎ横川小聖を呼びよせます。小聖が祈禱を始めると御息所が鬼女となって現れ、葵上のみならず小聖にも襲いかかります。激しい戦いの末、御息所の怨霊は折り伏せられ、心安らかに成仏するのでした。

鑑賞料 (全席自由席)

前売券 (後楽園入園券付)	5,000円
当日券 ※当日券は能舞台で販売します ※後楽園入園券は別途お買い求めください	学生券 2,000円

※後楽能YouTubeチャンネル
当公演の能の解説動画がご覧になれます→
YouTubeページから『岡山後楽能』で検索



チケット販売窓口

岡山後楽園 TEL.086-272-1148
喜多流大島能楽堂 TEL.084-923-2633
www.noh-oshima.com
茂山狂言会事務局 TEL.075-221-8371
ぎんざやプレイガイド TEL.086-222-3244
チケットぴあ <https://t.pia.jp> (Pコード:544-654)
※後楽園入園券は付きません